

<令和2年(10回生) 答辞>

爽やかな風に春の匂いを感じられる今日このよき日、私たち三年生七十五名は卒業を迎えました。教職員の皆様、在校生の皆様、私たち卒業生のためにこのような素晴らしい卒業式を挙げて頂きありがとうございます。ご来賓の皆様、保護者の皆様ともに、この式に足を運んでくださり、卒業生一同、心よりお礼申し上げます。

振り返れば、福岡水巻看護助産学校での三年間は瞬く間に過ぎて行きました。看護師になるという同じ夢を抱き、看護の道へと進む喜びと、これから始まる学校生活への期待と不安に胸を膨らませ、本校に入学して参りました。入学して解剖生理学や基礎看護など専門的な学習が始まり、看護の道へと繋がる専門性の高い学習ができて嬉しい反面、それらを十分に理解するためには多くの見聞を要しました。

十か月にも及ぶ専門領域実習では、今まで学んできた知識を活かして、患者像を深めることでその患者にあった看護計画を立案し、看護を実践してきました。しかし、日々変化していく患者の状態を捉えることは難しく、思うように看護ができず自分の未熟さを痛感し、悔し涙を流すこともありました。実習指導での多くのアドバイスや、家族のサポート、実習グループの皆の励まし、そしてなにより患者が待っていてくれたことで最後まで真摯に患者と向き合うことができ、実習を乗り越えることができたように思います。中でも、終末期の実習では初めて患者の死と向き合い、人生最後の時に関わる看護師としての役割や、命の尊さを改めて学ぶとともに、望ましい死とは何だろうと考えさせられました。今まで送ってきた生活は患者一人一人違っています。そのことを理解し、今まで送ってきた生活や積み重ねてきたことを最後まで行えるように支え続けることが、人間として、その人らしい生を全うできることにつながると学びました。これから先、患者や家族の不安をなくすことはできないかもしれないけれど、看護師の介入次第で安心感につながり、患者だけでなく家族も含めた看護をしていける看護師にやれるよう努力をし続けていきたいと思えます。

すべての実習が終了してからは、国家試験に向けての学習が本格的に始まり、休日も出校し勉学に励みました。しかしすぐには結果は出ず、焦りや不安ばかりが募って行きました。それでも全員合格を目標にクラスメイトと励まし合いながら、切磋琢磨して行きました。国家試験前の最後の出校の日、ずっと私たちを支えてくださっていた先生方からの言葉や、一年生時から魔法の言葉「大丈夫、大丈夫」で、たくさんの勇気や自信を貰い当日を迎えることができました。

在校生の皆さんはこれから先、様々な葛藤や困難にぶつかり悩むこともあると思います。そんな時こそ周りを見てください。決して一人ではないはずで、仲間や家族がいます。支えてくれる人はたくさんいます。しかし、その環境を当たり前だとは思わずに、日々感謝し前進して行ってください。

四月、私たちはそれぞれの新しい道を歩み始めます。この三年間で学んだ知識や技術はもちろん、患者に寄り添った看護とは何か探究し続け、一人一人が務めを果たせるように努力をしていきます。最後になりますが、これまで私たちのそばで支えてくださったすべての皆様に改めて感謝申し上げますとともに、私たちの成長を見守り続けてくれた両親に感謝します。母校の発展を願い、答辞とさせていただきます。

<平成31年(9回生) 答辞>

春の訪れを感じるこの良き日、私たち卒業生のために、ご来賓の皆様、学校長をはじめ、日々励まして下さった諸先生方、保護者の皆様にご出席賜り、このような素晴らしい卒業式を挙げて頂き有難うございます。今、無事、卒業を迎えることができ、心よりお礼申し上げます。

看護の道へと歩み始める期待や喜び、不安を胸に抱きながら、入学した春から3年という月日が流れました。ここで過ごした三年間は、共に笑い慰め合い、喜びや悲しみを分かち合った仲間がいたからこそ、乗り越えられた道だと思っています。また、ここまで成長できたのは、私たちのことを見守り支えて下さった多くの方々のお陰だと改めて感謝いたします。

専門領域別実習では、事前学習はしていても不安なことばかりで、思うように患者様に対して看護ができず、悔し涙を流すこともありました。しかし、いつも私たちのことを考え、熱心にご指導いただいた指導者の方々、しっかり勉強して看護師になってほしいと受け持つことに同意して下さった患者様とご家族の皆様のご好意により、看護の素晴らしさを学ぶことができたと思っています。

統合実習では、今まで学んできたことを全て活用しながら、臨床に近い状態で実習させて頂きました。看護師は常に多重課題を整理しながら看護実践へと繋げていくことを実感し、一つでも多くの知識や技術を身につける必要性を改めて感じました。

すべての実習を終えてから、国家試験に向けての学習が本格的に始まりました。模擬試験では思ったように点数が伸びず、何度も不安になりましたが、「第108回看護師国家試験に三年生75名で合格する」という目標に向かって、全員で切磋琢磨しながら取り組みました。

国家試験当日は、午前問題が難しく、少し落ち込んでいましたが、引率の先生方から「大丈夫、午後頑張る！」の言葉に勇気をもらい、午後からは落ち着いて試験を受けることができました。また、家族の支えがあったからこそ、夢に向かって頑張ることができ、三年間の学生生活を送ることができたと思います。ここまで支えてくれた家族に感謝し、今度は看護師として大きく成長していき、恩返しをしていきたいと思っています。これから看護職者として社会へ出ていきます。一人一人が看護師として責任ある行動を取り、成長していけるよう努力いたします。

在校生の皆さんはこれから続く学校生活において様々なことがあります。どうか、仲間と共に一つ一つの出来事を大切に、多くの学びを成長に繋げて行って下さい。今ある環境が当たり前だと思わず、何事にも感謝の気持ちを持って日々積み重ねを大切にしていってください。

最後になりましたが、これまで私たちを導き支えて下さった学校長をはじめ、諸先生方、そして今まで支援して下さいました皆様に感謝申し上げますとともに、ますますの母校の発展をお祈りし、卒業生を代表してお礼の言葉とさせていただきます。

<平成30年(8回生) 答辞>

例年にない厳しい冬の寒さもやわらぎ、少しずつ春の訪れを感じられるようになりました。本日は、私たち卒業生のために多くのご来賓の方々にご臨席賜り、このような素晴らしい卒業式を挙げて頂き、有難うございます。卒業生一同、心よりお礼申し上げます。

卒業の日を迎えた本日、それぞれが思い描いた希望に満ちた看護師像を胸に抱きながら臨んだ入学式のことを思い出されます。慣れ親しんだ仲間や土地を離れ、不安と希望が交錯していたその日は、機能のここのように思い出されます。三年間はあっという間でした。この三年間を支えてくれたのは、三年間を共に過ごした仲間達です。共に笑い、時には慰め合いながら、苦しみも悲しみもそして喜びも分かち合えたからこそ、この日を迎えることができました。そして、何よりも私たちを常に温かい眼差しで見守り、支えて下さった多くの方々のおかげだと改めて感謝しております。

看護学生としてのこの三年間は、楽しいことも嬉しいこともありましたが、むしろ看護の難しさを感じることの多い日々でした。慣れない医療用語や覚えなければならないことが多い解剖生理学、病態生理学、専門領域の看護学など、寝る間も惜しんで勉強に励んできました。

実習の中で印象に残っていることがいくつかあります。受け持ち最終日に、患者様が未熟な私に、「私たち患者側は看護師を信頼しています。だから、これから頑張るね」とおっしゃったこと、また、終末期実習では、ターミナル期で意識が混濁している患者様に、ご家族と共に少しでも安楽にと願いつつ、手浴や足浴など色々なケアを行いました。ある時「いつも見てくれてありがとう」と、ご家族が声をかけて下さいました。患者様やそのご家族を通して、ひとに関わるという責任の重さ、信頼関係を構築することの大切さ、それぞれの価値観に寄り添い看護を提供する難しさ、苦悩する日々に涙することもありました。患者様の命に直面し、その命に看護学生としてどう向き合えばよいか解からず困惑することもありました。疾病と戦いながら辛い療養生活を送っていらっしゃる患者様とご家族からの暖かい言葉や感謝の気持ち、時に見せて下さる笑顔は、ただひたすら愚直に看護する私たちにとって、とても大きな力となり、次の看護への原動力となりました。看護の素晴らしさ、深さ、はてしない看護の可能性を感じ取ることができました。

そして何より、三年間の看護学生生活を支えてくれた力は家族の存在に他なりません。「近代看護の祖」と呼ばれているフロレンス・ナイチンゲールの看護覚え書の一説には、「看護とは新鮮な空気、陽光、暖かさ、清潔さ、静かさなどを適切に整え、これらを活かして用いること、また食事内容を適切に選択し適切に与えること、このようなことの全てを、患者の生命力の消耗を最小限にするように整えること」と書かれています。これまで日常的で当たり前のことだと思っていたことが、本当は重要なことだと気付かされました。今こうしていられるのは、ナイチンゲールが唱えたことにも通じている、私たちが勉強しやすい環境を整えてくれ、精神的にも寄り添ってくれた家族があつてこそだと、心から感じる事ができました。

これから私たちは、医療に携わる者として社会に出ていきます。決して1人の力では、ここまで来ることはできませんでした。これまで支えて下さった多くの方々の思いを胸に1人でも多くの人々の健康な生活の実現に貢献し、自分自身も笑顔でいられるよう切磋琢磨していきたいと考えます。

在校生の皆さん。これからの看護学生生活において、果たさなければならない多くのことに、不安を抱えているかもしれません。ただ、不安や困難に立ち向かう事は、最終的にはあなた方の財産となり、

そしてあなたが目指す看護師としての礎になることと思います。それぞれの看護を培われていかれるよう願っております。

最後になりましたが、これまで私たちを導き支えて下さった学校長を始め、諸先生方、そして多くの方々に感謝申し上げますとともに、ますますの母校の発展をお祈りし、答辞とさせていただきます。

<令和2年度(11回生) 卒業式 答辞>

やわらかな日差しがそそぎ、春の訪れを感じられるこの良き日に、私たち卒業生のためにこのような卒業式を挙行していただきありがとうございます。卒業生一同、心よりお礼申し上げます。

不安と希望を胸に入学した頃、初めて触れる専門的な内容に戸惑いながらも、あっという間に三年という日々が過ぎていきました。

このような日々の中、昨年の専門領域別実習が始まると同時におとずれた新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、不自由な生活を強いられることとなり、臨地での実習ができなくなったことは、看護を学ぶ私たちにとって大きな痛手となりました。しかし、そのような状況の中でも関連の病院では実習をさせていただき、大変感謝しています。

そのような貴重な実習の中、自分の知識、技術、精神面の未熟さ、十分なケアを提供できないもどかしさで悩むこともありましたが、先輩看護師のアドバイスやチームメンバーで相互に助け合うことで乗り越えることができました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う自粛生活の中、様々な事を考える時間を持つことができ、普段の生活がいかに尊いものであるかという事を改めて感じることができました。そして、このような経験をした私たちだからこそ、患者、家族の思いをくみ取り、寄り添える看護が提供できるものと思います。

これから私たちは、医療に携わる者として社会に出ていきます。新しく始まる生活への不安や困難に立ち向かわなければならないことも沢山あると思いますが、この三年間で学んだ経験を活かし、経験を積みながら患者、家族にとってより良い医療につながるよう看護を探究していきたいです。

最後になりますが、これまで私たちのそばで支えてくださったすべての皆様に、改めて卒業生一同感謝申し上げますとともに母校の発展を願い、卒業生を代表しての答辞とさせていただきます。